

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
運動器 (整形外科)	必修	講義3	3	2	月～金	加来 信広 (整形外科)

【科目名の英文】 Musculoskeletal Science

【授業の概要・到達目標】

運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

・リハビリテーションの基本を学ぶ。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 骨・軟骨・関節・靭帯・脊椎の構成と機能を説明できる。		○				
2. 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。	○					
3. 筋骨格系の病態に即した徒手検査（四肢・脊柱の可動域検査、神経学的検査等）を説明できる。						
4. 筋骨格系画像診断（エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>、超音波検査、骨塩定量）の適応を概説できる。			○			
5. 四肢・脊椎外傷の診断と初期治療を説明できる。						○
6. 運動器系の一般的疾患の症候、診断と治療を説明できる。		○				
7. 運動器の感染性疾患の症候、診断と治療を説明できる。	○					
8. 骨や軟部組織の腫瘍性疾患の症候、診断と治療を説明できる。	○					
9. リハビリテーションの概念と適応（心大血管疾患、呼吸器疾患、癌等の内部障害を含む）、医師の役割を説明できる。				○		
10. スポーツ医学を説明できる					○	

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	運動器	整形外科総論	整形外科・加来	講義
2	運動器	整形外科の歴史	川島整形・川畷	講義
3	運動器	保存療法	整形外科・片岡	講義
4	運動器	画像診断1	放射線科	講義
5	運動器	画像診断2	放射線科	講義
6	運動器	頸椎疾患	整形外科・阿部	講義
7	運動器	胸椎・腰椎疾患	整形外科・宮崎	講義
8	運動器	肩関節疾患	整形外科・赤瀬	講義
9	運動器	膝関節疾患	整形外科・平川	講義
10	運動器	骨折・脱臼1	整形外科・金崎	講義
11	運動器	骨折・脱臼2	整形外科・金崎	講義
12	運動器	手の外科	整形外科・日野	講義
13	運動器	脳性麻痺	非常勤・福永	講義
14	運動器	運動器実習1（骨学実習）	整形外科・糸永	実習
15	運動器	軟部腫瘍・総論	整形外科・田仲	講義
16	運動器	軟部腫瘍・各論	整形外科・田仲	講義
17	運動器	末梢神経1	整形外科・細山	講義
18	運動器	足の外科	整形外科・日野	講義
19	運動器	小児整形	整形外科・岩崎	講義
20	運動器	骨延長法	整形外科・河野	講義
21	運動器	症例検討	整形外科・平川	実習
22	運動器	運動器実習2（局所解剖）	整形外科・平川	実習
23	運動器	感染	整形外科・赤瀬	講義

24	運動器	関節炎	整形外科・糸永	講義
25	運動器	リハビリテーション	整形外科・片岡	講義
26	運動器	特別講義 (Arthritis)	非常勤・岡田	講義
27	運動器	股関節	整形外科・加来	講義
28	運動器	末梢神経2	整形外科・細山	講義
29	運動器	骨代謝	整形外科・糸永	講義
30	運動器	スポーツ医学	アルメイダ・松本	講義

【アクティブラーニングの内容】 事例を用いた症例検討で、診察手技や診断法、治療の理解を深める。機能解剖の理解についてはレポートの提出により評価する。	【その他の工夫】 講義の内容を実習で確認し理解を深める。実臨床に則した実習を実施する。
--------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	参考文献等から運動器の解剖を予習する(20h)。
事後学修	授業での学習を活かし配布資料などを用いて復習する (25h)。

【教科書】

教科書は指定しない。授業中に配布するプリントを使用する

【参考書】

田仲 栄、高木理彰 他、標準整形外科学 第15版、医学書院、2023年、ISBN978-4-260-04936-8

【成績評価方法及び評価の割合】

受講状況・レポート課題：20%、本試験：80%を基準に総合して評価する。

【注意事項】

【備考】

リンク	URL	
教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	医師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	実際に経験した臨床症例を講義で提示し説明する。 実臨床に則した実習（骨学実習、局所解剖、症例検討）を行う。	
授業形態	対面授業	